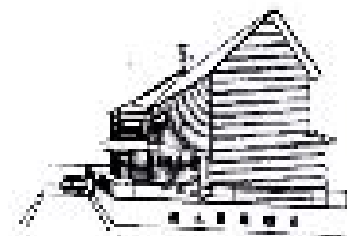


<今朝の聖書から> ペンテコステです。子どもたちには“教会の誕生日”として教えたいものです。さてこの聖霊降臨節、この先、クリスマスアドベントの前まで、続くことを思って見られたことがあるでしょうか。クリスマスとかイースターは冬から春にかけて集中しています。けれどもこの降臨節、信仰者にとって、“私は一体何を信じ確信しているのか”ということ問い続ける季節なのです。ですから、一年の半分程は、この“節”が続くのだと受け止めても間違いのないでしょう。この季節を素晴らしく過ごした時に、クリスマスが素晴らしいものになるのです。ただただ過ごしたら、毎年変わらない、忙しいクリスマスがやってくるのではないのでしょうか。今朝は“御言葉なる神”について学びましょう。今月の“教会の学び”では使徒信条など“基本信条”について学びましたが、使徒信条が告白するように、“聖霊を信ず...”教会はこのところに“教会”、“聖徒の交わり”などと共に述べられています。そして私たちは、どうして日本語ができたのか、ということは今は問いませんが、日本語で理解し、口で言葉にしています。バベルの塔の出来事以来(創世記11章)言葉の違いを乗り越えるために、私たちは、主よりこの力を頂いてきました。言葉の違いや、文明の発展、違う経験や生い立ちという素晴らしい“賜物”を持つ一人一人が、違いを争いの原因にするのではなく、すべての人の幸福にする力にするには、直面する課題の解決に神様に頼って力を頂かなければならないことがはっきりしました。教会はそのようなところなのです。いさかいの場所ではありません。違う言葉を話す人たちも、みな一緒に主を崇めて力を頂けるところです。御霊による一致(テサロニケ1:6には“多くの患難の中で、聖霊による喜びをもって御言を受けいれ、わたしたちと主とにならう者となり”とあります)がこの世に約束通りに、主の愛によってもたらされました。ルカ24:49に“わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい”とあります。その時が今朝訪れ私たちは力を得ました。初めにあった言葉(ヨハネ1:2)はいまや、私たちの言葉である日本語や、それぞれいつも使っている言葉(神さまの思い)になったのです。言葉のために沢山の弟子たちや教会が、力を発揮しました。数種類の日本語にまで訳されて、今届けられています。英文の聖書の数はもっとたくさんあります。故郷の言葉になった御言葉に感謝しましょう。

週報

2009年 5月 31日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式	第一日曜日)
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp